



「今日が楽しく明日が待たれる学校」

2学期終了・・・師走～年の瀬を迎える今

早いもので、令和4年も残すところあと3週間となりました。町には歳末特有の音楽が流れ、各地で冬の風物詩ともいえる飾り付けや催し物が開催され、行く年を惜しみつつ新しい年を迎える準備が進んでいます。

今年もコロナ禍での1年となり、随所で対応へのご協力をお願いする場面がありました。このような状況の下、無事に2学期を終えようとしておりますことは、ひとえに保護者や地域の皆様のご理解とご協力によるものと感謝申し上げます。学校では、3年生の三者相談や2年生の修学旅行なども終わり、2学期のまとめの活動が行われています。2学期をよく振り返り、3学期への展望を描いてほしいと思います。

好きの反対は？

12月10日は世界人権宣言が採択された日です。20世紀には、世界を巻き込んだ大戦が二度も起こり、特に第二次世界大戦中においては、特定の人種の迫害、大量虐殺など、人権侵害、人権抑圧が横行しました。このような経験から、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になってきました。

そこで、昭和23年(1948年)12月10日、国連第3回総会(パリ)において、「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」として、「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、それ自体が法的拘束力を持つものではありませんが、初めて人権の保障を国際的にうたった画期的なものです。

この宣言は、すべての人々が持っている市民的、政治的、経済的、社会的、文化的分野にわたる多くの権利を内容とし、世界各国の憲法や法律に取り入れられるとともに、様々な国際会議の決議にも用いられ、世界各国に強い影響を及ぼしています。

人は皆、わがままな部分を持っています。だからこそ、家庭や学校での教育によって「我慢すること」、「自分を抑えること」を学びます。つまり、「自分のしてほしいことは他人にはしてはいけない」ことを知ります。これは論語の「己の欲せざるところは、人に施すことなかれ」(己所不欲、勿施於人。)と全く同じです。自制心を身に付けるのです。そしてこれは、きまりを守ることにより身に付きます。きまりを守ることにより規範意識が育ち、立派な社会人となっていきます。その基礎として、学校生活では集団生活を通じた規範を学びます。日々の学習や学校行事、部活動のなかで多くの人と接し、励まし合ったり切磋琢磨したりして人間関係のあり方を学ぶのです。そして知らぬ間に思いやりの心や互いの立場の違いを認め合う心の寛さ(=豊かな心)が身に付きます。

最近の社会や学校では、大変残念ながら、いじめや暴力、ネット上でのヘイトや悪口といった差別や人権を侵害する事案が起きています。中には、それが原因で不登校になったり自ら命を絶ったりするといった大変胸が苦しめられる事案も目にするのが多くあります。これは人間として決して許されるものではありません。なぜこのようなことが起こるのでしょうか。いくつかの原因の一つに「無関心」があります。見て見ぬふり、自分の言動や態度が相手に与える影響に気づかないふり等。

マザー・テレサの言葉に、「この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され、自分は誰からも必要とされていないと感じる事なのです」とあります。この世に生を受けた人で、必要のない人など一人もいません。大切なのは、自分にも友だちにも周りの人にも関心をもつことです。好きの反対は嫌いではありません。『無関心』です。

法務省の人権擁護機関では、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、昭和24年(1949年)から毎年、各関係機関及び団体とも協力して、全国的に人権啓発活動を特に強化して行っています。

いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障害等を理由とする偏見や差別、ハンセン病問題など、様々な人権問題が依然として存在しています。

これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、「誰か」の問題ではなく、自分の問題として捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

本年も、12月4日から12月10日までの1週間、全国各地で250を超える様々なイベントが実施される予定です。世界人権宣言の理念のもと実施される人権週間の取組をきっかけに、自分のことや周りの人達のことも含め、人権について考えてみてください。



修学旅行を実施しました

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて全県的に県内修学旅行を実施していましたが、本年度、行動自粛要請の緩和により関西地方への修学旅行を再開しました。旅行中は感染予防に最大限の注意を払い、保護者説明会を開いての実施でした。

旅行は11月27日（日）～11月29日（火）に実施しました。2日目までは良い天気でしたが、3日目は少し雨に降られました。しかし子ども達は、元気いっぱい3日間を過ごしました。

今回の修学旅行では、「自分で自身のことをきちんと整え、友情を深め、自分のわがままを抑え、公衆道徳を身に付け、集団の一員として行動できる」ことを目指していました。個人差はありますが、事前学習から旅行中を通じて、その目標は概ね達成できたと思っています。

各学級や学年度の振り返りをしっかりして、次のステップに向けた成長を楽しみにしています。以下に代表者の感想文と写真を掲載します。

修学旅行の振り返り

修学旅行を振り返って心に残っていることは、ピースおおさかの防空ごうです。ピースおおさかには、防空ごうの中に入ることのできる場所があり、友達とその中に入ってみると、「早く逃げろ!!」などの音声放送されており、とても怖かったです。戦争中はこのように小さい子から大人の方までが怖い思いをしていたと思うと、とても怖かったです。

次に心に残っていることは、東大寺です。東大寺には奈良の大仏があり、写真で見るととても迫力がありました。写真で見るとより実際に見たらとても大きかったです。昔の人達はこんなにも大きい大仏を作ったのかと思うと、すごいなと思います。

修学旅行初日に心配していたことは、生活班です。生活班には、普段話さない人がいたので緊張したけれど、話してみるとみんな優しく、初めて遊ぶカードゲームもしました。とても楽しく、普段話をしない人とも話せてよかったです。

修学旅行はすぐ終わってしまい、少ないくらいに感じたけれど、この修学旅行で学んだ平和学習のことや京都で学んだ歴史のことを忘れずに、これからも生きていきたいです。

修学旅行の振り返り

修学旅行を振り返って心に残っていること、学んだことは、1日目ではピースおおさか国際平和センターで戦争のことを学んだことです。映画を見て、今の日本がとても平和ということがわかり、これからはずっと平和であってほしいと思いました。また、薬師寺で聞いた話は、聞いてて楽しかったし、心にとっても響きました。

2日目は、京都で自主研修をしました。金閣寺は、写真で見るとよりピカピカ光っていて、水面に映る金閣寺もとてもきれいでした。清水寺は、清水寺に行くまでの道にたくさんのお土産屋さんがあって、とてもわくわくしました。清水寺の舞台から見る紅葉も清水寺もとてもきれいでした。

この修学旅行で今後に生かしていきたいことは、時間をしっかり守り、他の人とのコミュニケーションをしっかりとることです。またこれからも、平和の大切さを思い、お寺やお城をもっとよく知りたいとも思いました。



東大寺大仏殿



班長会議



二月堂

< 1月の主な行事予定 >

日	曜	1月	日	曜	1月
1	日	☞元日	18	水	よみきかせ読書
6	金	3学期始業の日	24	火	リフレッシュデイ
9	月	☞成人の日			私立高校入試事前指導（3年生）
10	火	リフレッシュデイ	25	水	私立高校入試（3年生）
12	木	校長会テスト（2. 3年生）～13日	26	木	私立高校入試（3年生）
13	金	実用英語検定	31	火	リフレッシュデイ
17	火	リフレッシュデイ			